

世界おもしろ文化比較——丸い地球のいたずらと楽しみ——

この2月には私が所属しているシニア大楽の「講師のための話し方講習会」があります。ここには自治体、団体、大学等の市民講座企画担当者なども集い、講師や講演の内容の比較検討がされます。15人の講師が話すので一人当たりの持ち時間は8分。その短い時間にかにPRをするかがポイント。私の講演のタイトルは「世界おもしろ文化比較——丸い地球のいたずらと楽しみ——」。このページでも原稿をご紹介します。

国際電話の時差からくるギャップ



この夏には多くの特派員やリポーターがオリンピックの取材でブラジルを訪れると思いますが、東京本社と電話交信の最初にちょっと戸惑いを感じるかもしれません。

特派員だった現役時代の私の体験です。ブラジルですべての取材が終わり原稿をまとめ本社に電話するのは夜の10時頃。日本では朝の10時です。（ブラジルは日本とちょうど12時間遅れの時差があります）。こちらはホテルのあまり明るくない灯りのもとで「コンバンワ」。でも相手から戻ってくるあいさつは「オハヨウゴザイマス」。しかも、こちらは一日の仕事の疲れでブランデーなど寝酒の時間なのですが、相手は朝の空気を胸いっぱい呼吸、モーニングコーヒーで張り切っているときなんです。このギャップ！慣れてくればすぐに乗り越えてはいかれるのですが・・・



“エッ 日本は地球の裏側” だって？

そう、ブラジルといえば、こんなこともありました。位置はちょうど日本の真反対にあります。これをある時、ブラジル人と話をしている「日本の真裏のブラジル」と言ってしまう、ずいぶん反撥されたことがありました。

「何言ってるんだい。ブラジルから見れば日本こそ裏側じゃないか！」と。たしかにその通りですね。丸い地球から見れば、どちらが表でどちらが裏かは決められないわけです。



ちなみに、南米で見る世界地図は日本のものとかかなり違ってきます。ちょっと学校で習った世界地図を思い出してみてください。図法によっても違いますが、もっとも一般的なメルカトル図法では、日本が地図のほぼ真ん中にあり、その左側にアジア、ヨーロッパのユーラシア大陸とアフリカ大陸、右側に太平洋をはさんで北米大陸、南米大陸が描かれています。ブラジルなどは右下の端の方にあります。

ところが、あちらの地図では、真ん中に北南米大陸が描かれている。ですから、日本の位置はというと、ずっと左上の端、日本の地図でいうイベリア半島、つまりスペインの端、世界の外れのような位置になるのです。彼らの言うことも分かるような気がしますよね。

「ああ、抱けなかったマドモアゼル！」

話はヨーロッパに飛びます。定年後の世界文学紀行の取材で、ユゴーの「レ・ミゼラブル」の舞台、フランスを訪れた時のことです。



パリに到着した日の午後5時、少し時間があつたのでオペラ座で公演中の舞台を観賞することになりました。劇場はパリのほぼ中心にあります。入り口で自由席券を買くと、空いている席に行きました。と、隣には若くて美しいフランス女性が座っています。そこで私は英語で尋ねました。

“May I take this seat?” 「お隣に座ってもよろしいですか？」

彼女も私の英語がわかったらしく“Sure” 「ええ、どうぞ」とニコリとうなずきました。(フランスでは意外に英語のできる人が少ない。英語ができてても自国語<フランス語>への誇りから話そうとしない人もいるのです)

私はこの機会に、これから訪問する作品の舞台や場所について相談しようと話しかけました。「ジャンバルジャンが、内戦で傷ついたコゼットの恋人マリウスを背負って逃げた下水道はどこですか?」。と、彼女は言ったのです。

「もうすぐ幕が開くから時間がありませんね。作品については私も知っていますから参考になるお話をできるかもしれません。よかったら自宅にいらっしやいませんか。そんなに遠くありませんから」。

“なんとラッキーな!”

私はオペラ座を出ると胸を躍らせながら彼女についていきました。家はすぐ近く、瀟洒なマンションの3階でした。「よかったらどうぞ」。部屋に入ると彼女は親切にもワインを差し出ししてくれ、言ったのです。



「ゴメンナサイ。少し汗をかいてしまったからちょっとシャワーを浴びさせてね」

そう言うと彼女はバスルームに入っていきました。部屋にひとり残った私はワインを口にしながら出てくるのを待っていました。10分ほどして、彼女がバスルームから出てきました。

と、なんと!彼女はうすいピンク色のネグリジェをまとっただけなのです。スレンダーな美しい身体が透き通って見えてきます。私はどこに目をやってよいかわからず、ソファに座ったまま動きがとれずにいました。

と、彼女はぐんぐん私に向かって歩いてくると両手を広げたのです。私をハグしようとしているのです。「ここで応えなければニッポン男児の名が捨たる」。私は彼女のあまりの美しさに見とれ我を忘れたように立ち上がると、思いっきり彼女を抱きしめようと両手を広げました。



ところが・・・その瞬間、私は夢から目が覚めたのです。時差で朦朧とした目をこすりながら、ホテルのベッドの上で枕を抱いていたのでした。パリと東京には8時間の時差があります。夕方の5時は日本の夜中の1時になっていたのです。

寝ている間に仕事が進む「魔法のマクラ」

最後に時差のお陰とも言える私のパソコン生活最前線のエピソードをご紹介します。

ちょうど10年前にホームページを立ち上げ、英語とスペイン語のページも設けました。でも、正しい翻訳のためはネイティブチェックが必要です。私も国内に多くの外国人の友人がおりますが、それぞれ忙しくてチェックを頼めるような状態ではありません。そこで特派員時代に知り合った友人の、英語はアメリカに住むKさん、スペイン語はパナマに住むMさんに頼むことにしました。よく考



えてみると、アメリカでもパナマでも、そこに住んでいる人はいわば誰もがネイティブというわけですね。

こうして、翻訳した原稿を夜、メールに添付して送っておくと、時差の関係で向こうは昼間。早いときには翌朝には私のパソコンにチェックされた原稿が戻っています。つまり、こちらが寝ている間に仕事は進んでいるのです。「あんたはいいね。魔法の枕を持っている」なんて揶揄されたこともあります。



世界に事業所を持つ企業ではこんな芸当もやっつけてのけます。

そこでは、パソコンによる一つの仕事を、インターネットを使いアメリカからインドへ送る、今度はインドからイギリスへ、そしてまたイギリスからアメリカへと地球の昼時間を追っかけてその仕事が継続され進んでいく、つまりそれぞれの国の労働者は仕事が終わり眠っていても、リレーされたその作業は24時間どこかの国で続いているのです。

丸い地球の時差を活用！こんなこともできる時代の最先端のご紹介です。